

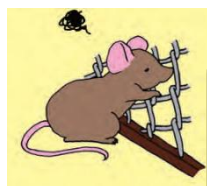
高病原性鳥インフルエンザは、韓国等で依然断続的な発生があり、我が国でも宮崎県（2件）、山口県の鶏での発生や国内各地の野鳥などから本病ウイルスの確認が相次いでいます。

高病原性鳥インフルエンザから鶏を守るために 侵入防止対策を強化し、最大の警戒を！

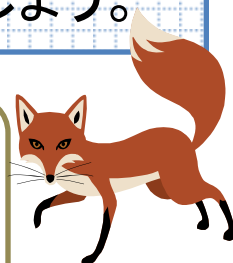


防鳥ネット、防護フェンス、金網等の点検修理！

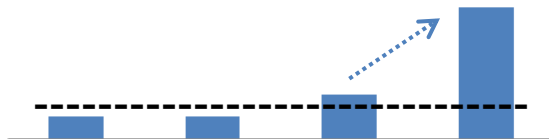
- ・防鳥ネットを下までしっかり張りましょう。
- ・壁や扉の隙間や穴があれば、埋めましょう。
- ・こぼれた餌等ないようにいつも清潔にしましょう。



- ・毎日の健康観察を一層慎重に行いましょう。
- ・死亡羽数の増加があった時、いつもと何か違うと感じる異状があった時はすぐに連絡を！



死亡羽数 × 2



◆死亡羽数増加の目安は・・・

- ・過去21日間の平均死亡率の**2倍を超える**死亡があった場合等は、家畜保健衛生所（飛騨総合庁舎電話 0577-33-1111）まで連絡してください。

※平日時間外（午前8時30分～午後5時15分以外）や休日の電話に対しては、「電話交換業務が終了しています。」に続く、「お急ぎの場合は、そのまま「1番」をダイヤル願います。」の案内メッセージに従って対応をお願いします。

メッセージは最後まで
聞いてね！

飛騨家畜保健衛生所

TEL(0577)33-1111 FAX32-9019

E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo-koyo/nogyo/kachikueisei/hidakaho/>





農場の衛生管理 チェック！

主なチェック項目

1	家きんが感染する病気の予防や拡散の防止に関する情報を把握している。	
2	衛生管理区域をはっきり分かるように設定している。	
3	「部外者立入禁止」等の看板を設置して入場制限をしている。	
4	立入る者の記帳などを張り紙などで周知し、入場記録として保管している。	
5	出入口付近に立ち入る者用の消毒薬を設置している。	
6	家きん舎の出入りする際に、手指、靴の洗浄・消毒を常設している。	
7	専用の衣服や靴を設置し使用している。	
8	立入るものは当日の行動歴や過去1週間以内の海外渡航歴を確認し、むやみに立ち入らせないようにしている。	
9	他の畜産施設などで使用したもので、直接、家きん、卵等に触れるようなものは洗浄または消毒している。	
10	持ち込む衣服や靴の過去2カ月以内の海外での使用歴を確認し、必要な場合を除いて、持ち込ませないようにしている。	
11	給餌設備、飼料保管場所等に野生動物の排泄物の混入防止に必要な適切な措置を講じている。	
12	飲用に適した水を給与している。	
13	侵入防止の柵や防鳥ネットなどの野生動物侵入防止対策を講じている。	
14	定期的にかきん舎の屋根や壁、防鳥ネットなどを点検し、破損個所を修繕している。	
15	ねずみや害虫の駆除に必要な措置を講じている。	
16	家きん舎や器具の清掃消毒を定期的実施している。	
17	空になった家きん舎やケージの清掃・消毒をしている。	
18	適切な密度で飼育している。	
19	異状があった場合に家畜保健衛生所に連絡する体制を確保している。	
20	毎日、家きんの健康観察を行っている。	
21	防疫措置のための埋却、焼却などの処理の準備ができている。	

高病原性鳥インフルエンザから鶏を守るために 侵入防止対策を強化し、最大の警戒を！

農場出入口での消毒など

入場車両は徹底して
消毒しましょう。



関係者みんなが、
協力して侵入防止！



関係者以外の入場は、
制限しましょう。



車両内部

車内は消毒液に浸した布や消毒噴霧器などを使ってきれいにしましょう。

運転席のマット



ハンドル



ペダル



消毒器の携帯



車両外部

タイヤ周りは徹底して
消毒しましょう。



入場の記録といっしょ
に消毒済みのチェック
もつけましょう。



外来者用の専用長靴、衣服、消毒槽、スプレーの設置

畜舎出入口の消毒など



畜舎ごとの専用の長靴と清潔な衣服



消毒薬の適正

消毒薬	出入口	車両等
逆性石けん	○	○
アルデヒド系	○	○
塩素系	○	×(腐食)
複合系	○	×(腐食)

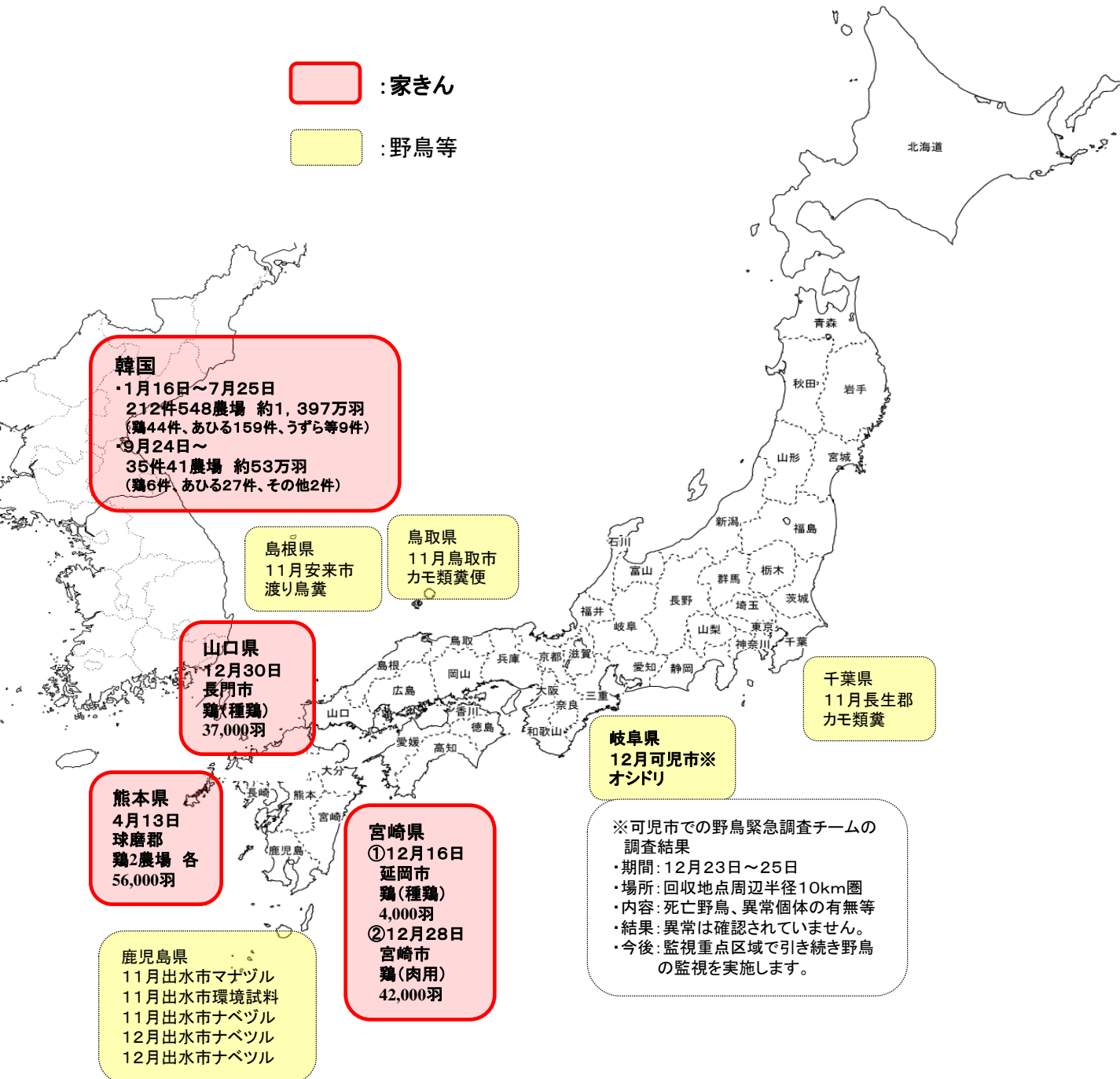
※高病原性鳥インフルエンザウイルスには、アルコール製剤、消石灰も有効です。



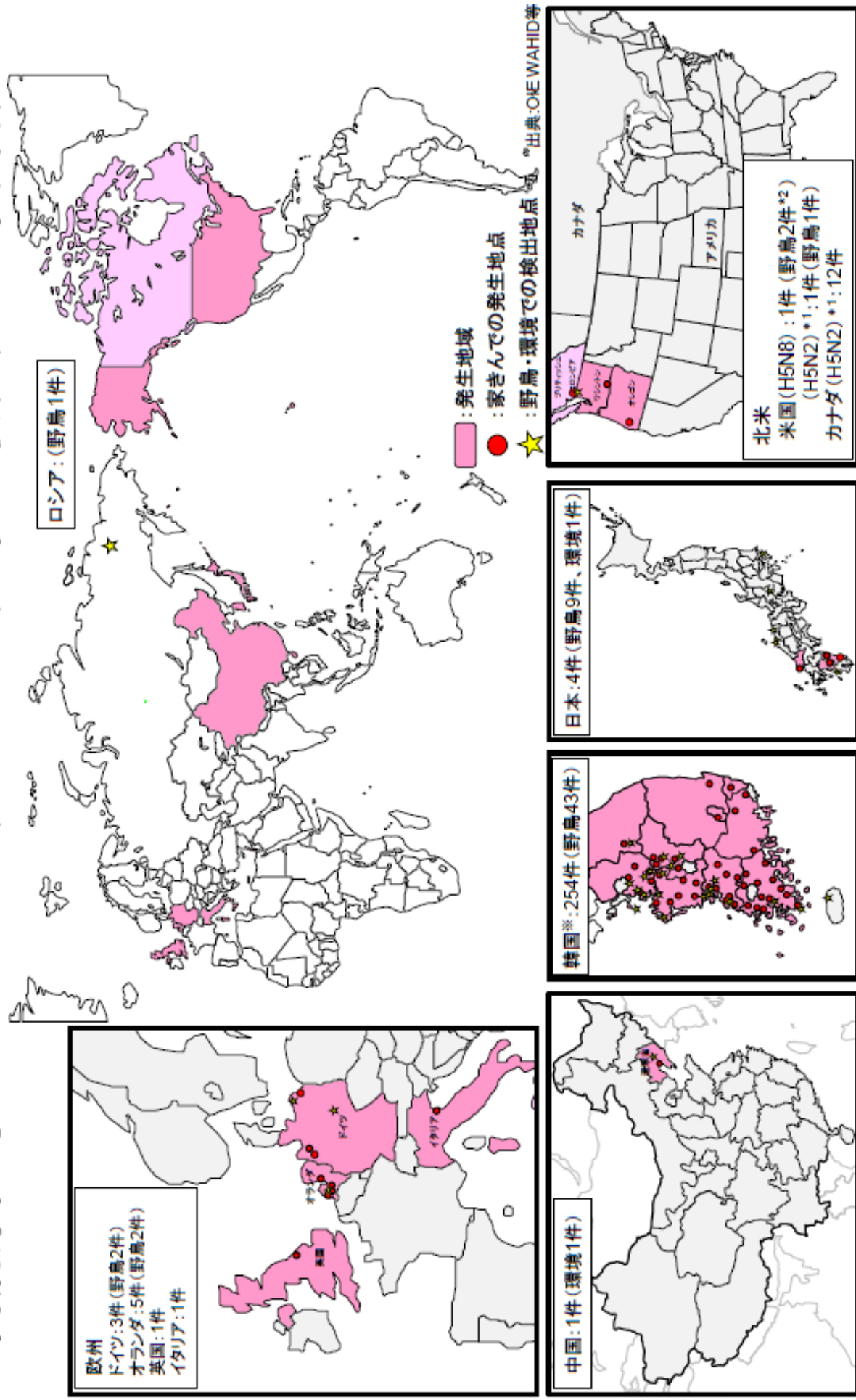
出入口付近の消石灰散布(例)

日本、韓国における高病原性鳥インフルエンザ (H5N8亜型)の発生状況(2014年1月～)

2015年(H27年)1月1日現在



高病原性鳥インフルエンザ(H5N8亜型)の発生状況(2014年以降)



※本図は発生の有無を示したもので、その後の清浄性確認については記載していない。また、本図の縮尺は一致していない。
 *1: 米国ワシントン州及びカナダで確認されたH5N2亜型ウイルスのHA遺伝子はユーラシア系統のH5N8亜型ウイルス由来と考えられる。
 *2: うち1件の検出地点は、太平洋沿岸地域の渡り鳥飛来経路と報告されている。

2015年1月8日現在